

1

3年間の計画

	目標	平成29年度(2017年度)	平成30年度(2018年度)	平成31年度(2019年度)
中学校ブロック保幼小中連携	「好き・書く・体力」のグローイングアップを実現	<ul style="list-style-type: none"> ○「好き」になる授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・太田小・西河原小・太田中公開授業。 ・太田中教員が小学校へ出前授業。 ○「書く」活動を全教科で <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識克服の取組み。 ・指導法共同研究。 ○「体力づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の改善。 ・中学校区全体でマラソン。 ○事務の共同実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「好き」になる授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・太田小・西河原小・太田中公開授業。 ・太田中教員が小学校へ出前授業 ・学びのシンポジウム実施。 ・小小授業連携。 ○「書く」活動を全教科で <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識克服の取組み ・指導法共同研究。 ○「体力づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の改善。 ・中学校区全体でマラソン。 ○事務の共同実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ●グローイングアッププラン3年間の総括・検証。 ○「好き」になる授業づくり <ul style="list-style-type: none"> ・太田小・西河原小・太田中公開授業。 ・小小授業連携。 ○「書く」活動を全教科で <ul style="list-style-type: none"> ・苦手意識克服の取組み。 ・指導法共同研究。 ○他教科・校種間連携 <ul style="list-style-type: none"> ・1つの教科にとらわれず、様々な教科や分野で連携を深める。 ○「体力づくり」 <ul style="list-style-type: none"> ・体育授業の改善。 ・中学校区全体でマラソン。 ○事務の共同実施。
確かな学力の育成	表現することを楽しむ子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○安心できる授業スタイル <ul style="list-style-type: none"> ・スクールスタンダードに基づいた、どの学級でも同じ授業スタイル。 ・「めあて」を明確にした授業。 ・「ふりかえり」を行い、学習内容の確実な定着につなげる。 ○書く力（記述力）の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体での「書く」取組み。 ・語彙を増やす取組みの実施。 ・表現しにくい児童への支援 ○「国語が好き」になる授業改革 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくて、わかる授業、主体的に学べる授業の創造。 ・読書活動の活性化の継続 ○「算数が好き」になる授業 <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の授業の継続。 ・『ふりかえり3つの観点』の活用。 ○学力低位層・エンパワー層を減らす。 <ul style="list-style-type: none"> ・補充学習の実施。 ・習熟を図るための取組み、計算タイムの実施。 ○家庭学習の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・学期に一度の家庭学習週間の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安心できる授業スタイル <ul style="list-style-type: none"> ・スクールスタンダードに基づいた、どの学級でも同じ授業スタイル。 ・「めあて」を明確にした授業。 ・「ふりかえり」を行い、学習内容の確実な定着につなげる。 ○書く力（記述力）の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・学校全体での「書く」取組み。 ・語彙を増やす取組みの実施。 ・表現しにくい児童への支援 ○「国語が好き」になる授業改革 <ul style="list-style-type: none"> ・楽しくて、わかる授業、主体的に学べる授業の創造。 ・読書活動の活性化の継続 ○「算数が好き」になる授業 <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の授業の継続。 ・『ふりかえり3つの観点』の活用。 ○学力低位層・エンパワー層を減らす。 <ul style="list-style-type: none"> ・補充学習の実施。 ・習熟を図るための取組み、計算タイムの実施。 ○家庭学習の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・学期に一度の家庭学習週間の実施。 	3か年計画の取組みの総括

		<ul style="list-style-type: none"> ○「学校に行くのが楽しい」子を増やし、つながり力を高める。 ・子どもたちが主体的に活躍できる場の確保…児童会・委員会活動の活性化。 ・コミュニケーション力を高める外国語活動の推進 ・ペア・グループ活動を通した言語活動への充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校に行くのが楽しい」子を増やし、つながり力を高める。 ・子どもたちが主体的に活躍できる場の確保…児童会・委員会活動の活性化。 ・コミュニケーション力を高める外国語活動の推進 ・ペア・グループ活動を通した言語活動への充実 	
豊かな人間性を育む	支えあうことのできる子どもの育成 一人ひとりの違いを認め合い、	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研の実施。 ・子どもたちをつなげるワークの実施。 ・『スクールスタンダード 集団づくり編』の定着。 ・人との出会いをつくる。 ・道徳の授業の充実。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内授業研の実施。 ・子どもたちをつなげるワークの実施。 ・『スクールスタンダード 集団づくり編』の定着。 ・人との出会いをつくる。 ・道徳の授業の充実。 	3か年計画の取組みみの総括
健康・体力の増進	体を動かすこと大好き！な子どもの育成	<ul style="list-style-type: none"> ○運動習慣を身につける（マラソン・なわとび） ・休み時間の外遊びの励行。 ・休み時間の体育館開放。 ○「楽しい」「できた」「汗をかく」授業の創造。 ・公開授業の実施。 ・保健体育部によるカリキュラムの整理。 ・学年授業研究の実施。 ・茨木っ子運動の実施。 ・指導しやすく子どもたちにもわかりやすい環境と用具の整備。 ・めあて学習に向けた学習カードや副読本の使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ○運動習慣を身につける（マラソン・なわとび） ・休み時間の外遊びの励行。 ・休み時間の体育館開放。 ○「楽しい」「できた」「汗をかく」授業の創造 ・公開授業の実施。 ・保健体育部によるカリキュラムの整理。 ・学年授業研究の実施。 ・茨木っ子運動の実施。 ・指導しやすく子どもたちにもわかりやすい環境と用具の整備。 ・めあて学習に向けた学習カードや副読本の使用。 	3か年計画の取組みみの総括
支援教育の充実				

2

今年度の結果と取組みについて

(1) 全国学力・学習状況調査

○●国語●○

国語A	国語B
<p>(領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>③読むこと やや課題が残る結果であった。</p> <p>④言語事項 やや課題が残る結果であった。</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 やや課題が残る結果であった。</p> <p>②短答式 課題が残る結果であった。</p> <p>(無解答率)</p> <p>やや課題が残る結果であった。</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて答える問題の正答率が一番高い。 ・文の中の主語と述語との関係などに注意して分を正しく書く問題の正答率が一番低い。 ・最初の問題の相手や目的に応じ、自分が伝えたいことについて事例などを挙げながら筋道を立てて答える問題の無解答率が一番低い。 ・最後の問題の漢字をひらがなから書き替える無解答率が一番高い。 	<p>(領域ごと)</p> <p>①話すこと・聞くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>②書くこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>③読むこと 概ね良好な結果であった。</p> <p>④言語事項 概ね良好な結果であった。</p> <p>(問題形式)</p> <p>①選択式 概ね良好な結果であった。</p> <p>②記述式 概ね良好な結果であった。</p> <p>(無解答率)</p> <p>概ね良好な結果であった。</p> <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの参加者として質問の意図を捉える問題の正答率が一番高い。 ・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながら読む問題の正答率が一番低、無解答率も一番高い。

分析

○国語 A

- ・全国と比較して問題が後ろにいけばいくほど正答率が下がり、無解答率が上がっている。最初の問題は正答率が良いことから、目的や意図に応じ、複数の資料から即座に情報を読み取る力に課題が見られる。
- ・主語と述語との関係などに注意して文を正しく書き直す問題の正答率が低い。主語と述語を明確にして文をつくることは、文章を書く上で基礎となる力となるので、文の構造を理解し相手に伝わるように正しく書く指導の充実を図る。

○国語 B

- ・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめることができている。
- ・目的に応じて、文章の内容を的確に理解し、自分の考えを明確にしながら書くことに課題があり、今後複数の本や文章を選んで読み思考力を深める指導の充実を図る必要がある。

算数

算数 A

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・異種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解して答える問題の正答率が一番高い。

・円周率の意味を理解して答える問題の正答率が一番低い。

・小数の除法の意味について、十進位とり記数法で表された大小についての問題、種の二つの量のうち、一方の量がそろっているときの混み具合の比べ方を理解して答える問題の無解答率が一番低い。

・折れ線グラフから変化の特徴を読み取ることの問題の無解答率が一番高い。

算数 B

(領域ごと)

①数と計算

概ね良好な結果であった

②量と測定

概ね良好な結果であった

③図形

概ね良好な結果であった

④数量関係

概ね良好な結果であった

(問題形式)

①選択式

概ね良好な結果であった

②短答式

概ね良好な結果であった

③記述式

概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

・合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に、条件に合う図形を見出す問題の正答率が一番高い。

・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈し、それを記述する問題の正答率が一番低い。

・合同な正三角形で敷き詰められた模様の中に条件にあう図形を見出す問題の無解答率が一番低い。

・メモの情報とグラフを関連付け、総数や変化に着目していることを解釈しそれを記述する問題の無解答率が一番高い。

分析

○算数 AB ともに正答率は全国と比較して上回っている状況が続いている。本校が学校全体で取り組んでいる、問題解決型の学習（児童が主体的に課題を見つけ、解決していく）の成果が表れているといえる。小数の除法については、全国と比較しても良好な結果となり、計算タイムの取り組みの成果が表れている。

また、「算数の勉強が好き」のポイントが、全国・大阪平均よりも大きく上回っていることから、わからない子どもたちに視点をあててきた授業づくりの成果と考える。みんながわかる授業を目指し、今後も研究・実践を積み重ねていきたい。

○A 問題 B 問題ともに、無解答率が全国と比較しても今年度はやや高い傾向にあった。あきらめずに、問題文の大切なところを見つけ、何を問われているかをつかむ力を育てていくことが必要。

○●理科●○

(領域ごと)

- ①物質 概ね良好な結果であった
- ②エネルギー 概ね良好な結果であった
- ③生命 概ね良好な結果であった
- ④地球 概ね良好な結果であった

(問題形式)

- ①選択式 概ね良好な結果であった
- ②短答式 課題の残る結果となった
- ③記述式 概ね良好な結果であった

(無解答率)

概ね良好な結果であった

(その他)

- ・ 2つの異なる方法の実験結果を分析して考察する問題の正答率が一番高い。
- ・ 実験結果を分析して、考察し、その内容を記述する問題形式の正答率が一番低い。
- ・ 骨と骨のつなぎ目の名称を問われる問題の無解答率が一番高い。

分析

○物質の領域は全国に比較して上回っている。国語や算数の教科と比較すると無解答率が低くなっている。問題の内容が、理科の知識を問うだけでなく、問題文の読解力や、情報の取捨選択など、「問題をつかむ」力の育成が必要とされていることから、国語力にも反映する結果となっている。

○「観察や実験を行うことが好き」という児童が多い。一方で、実験結果を考察し、記述することは得意としていない児童もいる。実験から得られた結果を自分の言葉で説明できるようにし、他者の考えを聞き、それを基に自分の考えを振り返ったり、見直したりするなどの話し合いを重視した学習活動を行い、事実を的確に表現できるよう育成していく。

○●経年比較●○

全体的な傾向についての分析

算数Bは昨年度よりも全国と比較して良い結果となった。

国語A算数Aが例年と比較して課題が残る結果となった。
無解答率が経年の推移として増加している。

学力高位層と学力低位層・エンパワー層 についての分析

学力高位層は昨年度よりやや増加。

学力低位層がここ数年増加傾向にある。学力低位層を減少させるための更なる手立てが必要である。

○●取組み●○

学力向上に関する取組み

○「国語が好き」になる授業改革

- ①「楽しい」「わかる」「やってみたい!」「教科や学習が好き」と子どもたちが生き生きと学ぶ姿を中心とした授業づくり、子どもたちが主体的に学べる授業づくりの研究の継続とさらなる追求。
- ②国語科での研究授業を実施。

○書く力（記述力）の向上にむけての取組み

- ①教科・時間を問わず「書く活動」の充実
すべての教科で「書くこと」を意識した授業改善を図る。「書くこと」に対する苦手意識や、抵抗感をなくしていくための工夫を行う。また、自分の考えを書く際に「理由を書く」「まとめる」「説明する」等の活動の機会を充実させ言語運用能力を高める授業づくりを目指す。
- ②語彙力をつけるための取組み。
- ③文の構造に焦点を当て、系統立てられた指導の充実。

○学力低位層を減らす取組み

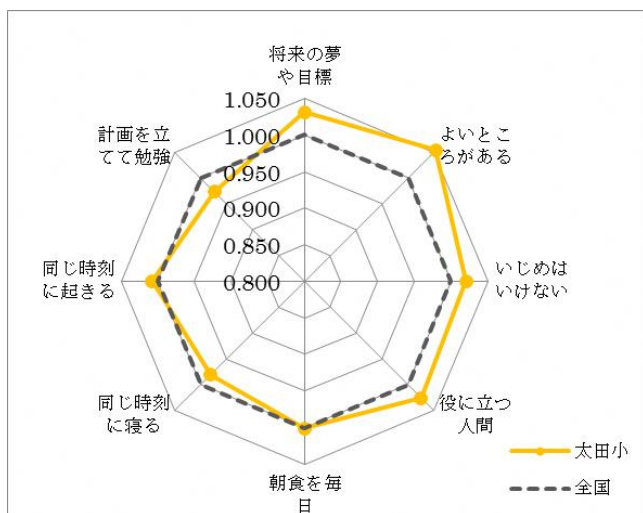
- ①補充学習の充実
学習に課題のある児童の支援の一つとして高学年を中心とした授業時間外での補充学習の行内体制を確立させ、担外、学習支援者を中心に実施継続。
- ②計算タイムの取組みによる基礎基本の習熟の継続。
計算タイムファイルの活用を実施継続。朝学習の時間の減少による、計算タイムの時間の確保を学校で検討。

○家庭学習の定着・充実に向けた取組み

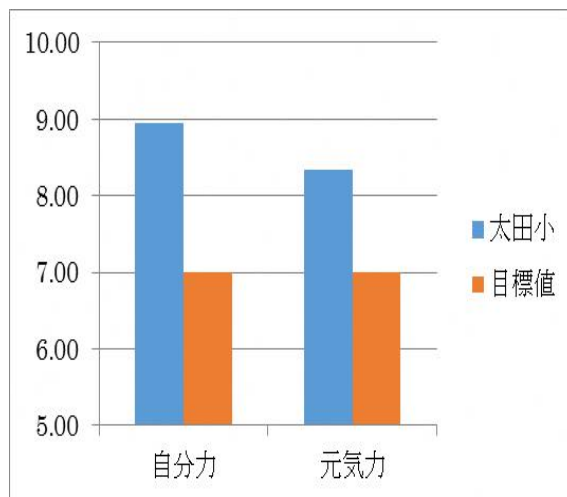
- ①家庭学習の定着・充実を図るため、各学期に一回「家庭学習週間」の取組みの実施・保護者へのフィードバック。
- ②ゲームやテレビの視聴時間を減らし生活リズムを整えていくための家庭への働きかけ・発信の継続。
- ③予習、復習、自主的・計画的な学習の充実に向けた学校全体の取組みの検討。

○●子どもたちに育みたい力●○

5つの力 全国平均との比較



5つの力 目標値との比較



今年度は質問紙項目が大幅に変更になったため、5つの力をこれまでどおり算出することができませんでした。そのため、全国平均との比較(レーダーチャート)は8項目、目標値との比較(棒グラフ)は、3項目とも実施した『自分力』と『元気力』のみとなっています。

分析

○規範意識を持ち、自分をコントロールできる力である「自分力」や健康・体力を保持増進できる力である「元気力」どちらも市の目標値を大きく上回る結果となった。

○「自分には良いところがある」や「将来の夢や目標がある」という質問については、多くの児童が肯定的に回答しており、自己肯定感、自己有要感が高いことがわかる。本校の「キャリア教育」の実践の成果となっており、「いじめはいけない」という規範意識にもつながっている。

○学習習慣については、やや課題が見られ、宿題以外の学習を計画立てて行っていない児童の回答も見られた。

○地域の力が大変高く、学校、家庭、地域が連携して子どもたちを育てる環境にある。

取り組み

・子どもの自主性を高めるために、子どもたちが自分たちで学校の問題に向き合い、より良い学校にするための企画立案ができるよう促す。

・すべての子どもが安心して授業を受けることができるための環境づくり(ツール)や、心から安心して楽しんで学校に来られるように、教師が子ども同士をつなげる役目となる。

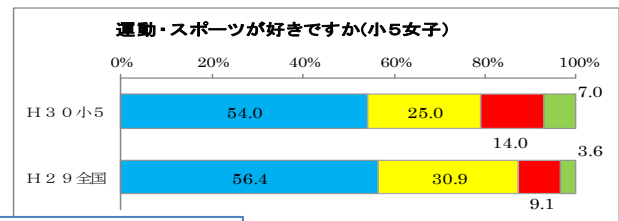
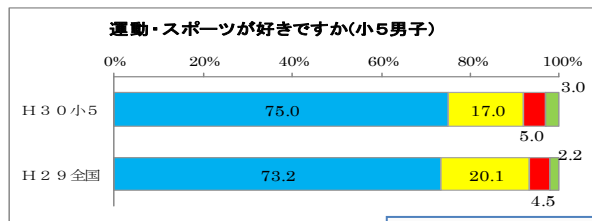
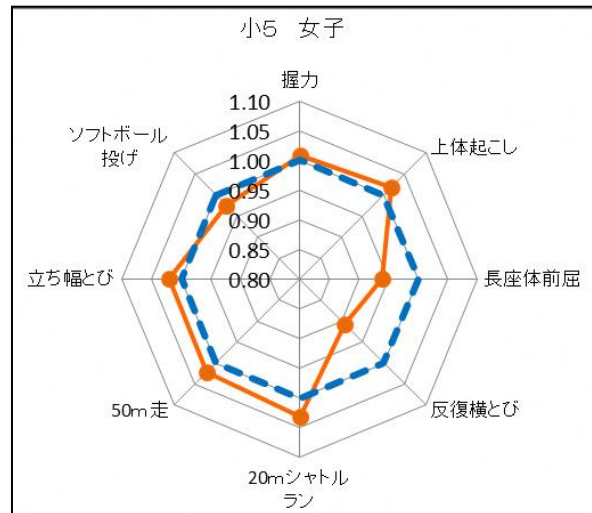
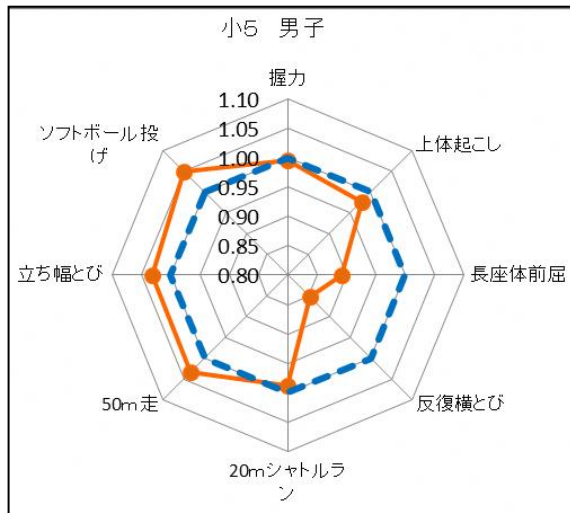
・ペア学年交流を通して、異学年とのつながりを図る。

(2) 全国体力・運動能力、生活習慣調査

男子 (小5)

○●体力●○

女子 (小5)



■好き ■やや好き ■ややきらい ■きらい

分析

- 概ね良好な結果・・・50m走・立ち幅とび
課題のある結果・・・反復横跳び・長座体前屈
以上の結果より、俊敏性・柔軟性に力を入れていく必要がある。
- 男女ともに、昨年度より20mシャトルランの数値が上がっており、向上が見られる。
- 運動・スポーツが好きですかというアンケート結果より
男子・・・肯定的な回答が、ほぼ全国平均と変わらない。
女子・・・肯定的な回答が、全国平均を下回っている。
以上の結果より、「またやりたい」「楽しかった」と思えるような授業の追求が必要である。

取組み

- 運動習慣につなげる取組み
 - ①マラソン期間の設定・・・マラソンカードの配布。西河原との合同マラソン大会 (案)
 - ②なわとび・・・ジャンピングボードを設置。学習カードの配布
 - ③休み時間の体育館使用 委員会と連携した外遊びの提案・励行
- 授業改善「楽しい(またやりたい)」「汗をかく(運動量の確保)」「できた!」と言える授業の追求
 - ①校内講習会
 - ・学期に1度のペースで、講習会を行う。(例: 器械運動、陸上運動など)
 - ②環境づくり「マット・とび箱」
 - ・校内で行う期間を決め、使いやすいように外に出しておく。
 - ・体育館内に掲示物を貼ったり、タブレットを使ったり、動きの確認をできるようにする。
 - ③学習カードや副読本の活用
 - 子どもたちが自分のめあてを設定し、それに向けて練習方法を工夫する授業を追求する。
 - 評価にも活用する。
 - ④茨木っ子運動やストレッチの実施
 - 毎回の体育の時間に実施。体幹を鍛え、体のコンビネーションや柔軟性を高める。